

アナウンサー：原子力発電所に関する情報です。

原子力安全保安院などによりますと、福島第1原子力発電所1号機では、原子炉を冷やす水の高さが下がり、午前11時20分現在で、核燃料棒を束ねた燃料集合体が、水面の上、最大で90センチほど露出する危険な状態になったということです。このため、消火用に貯めていた水など、およそ2万7000リットルを、仮設のポンプを使うなどして、原子炉の中に流し込み、水の高さを上げるための作業を行っているということです。この情報繰り返します。

…… 無音

…… スタッフの声が漏れる：ちょっとね、今の情報使っちゃいけないんだって

アナウンサー：改めて原発に関する情報です。

福島県にある福島第1原子力発電所の1号機では、原子炉が入った格納容器の圧力が高まっているため、東京電力が、容器内の空気を外部に放出する作業を始めましたが、格納容器のすぐ近くにある弁を開く現場の放射線が強いことから、作業をいったん中断し、今後の対応を検討しています。

原子力災害対策本部報告書

平成23年(2011年)東北地方太平洋地震について

平成23年3月15日(17:00)現在

緊急災害対策本部

原子力災害対策本部

4/75頁

(i) 事故の発生・進展経緯

12日

10:04~18:30 1号機の核燃料の一部が一時水面上に露出

10:04 マイナス50cm

11:20 マイナス90cm

12:05 マイナス150cm

15:28 マイナス170cm

18:30 ダウンスケール

13:00 1号機に関し、原子炉水位が低くなっているため、注水を順次実施